

複式学級における反転授業の実践と今後の展望

林田菜緒(10112086)

1. 背景・目的

長崎県は、少子化による児童数の減少や離島が多いという点から、複式学級が全国で5番目に多い県である。また、長崎県教育振興基本計画(2014)では、今後5年間で特に重点的に取り組む施策として、離島等の過疎地域における教育の維持・向上を挙げている。さらに、文部科学省(2014)は、「離島や過疎地等においては、教育の質の確保が大きな課題となる。」と述べている。したがって、離島や過疎地における学級形態のひとつである複式教育の充実に目を向ける必要がある。しかしながら、複式教育に携わる多くの教員が、「わたり」や「ずらし」などの授業形態に不安を感じている。

一方、反転授業が近年注目されており、佐賀県武雄市では、スマイル学習と呼ばれる反転授業を実践している。スマイル学習では、予習であらかじめ知識を習得することで、授業時間の多くをグループ学習の時間に費やしている。重田(2014)は、「反転授業は、生徒の学習意欲を向上させて知識の定着を促す」と述べている。反転授業を導入した実践事例が多く報告されているが、複式教育における実践は希少である。したがって、本研究は複式学級において反転授業を実践し、今後の展望について述べる。

2. 方法

本研究は、長崎市内の公立小学校の複式学級(5年生5名、6年生5名、計10名)を対象に算数科(1時間)の授業を実践した。学習内容は、5年生が「順々に調べて」、6年生が「場合を順序よく整理して」であった。児童らは、授業の前日にタブレット端末を持ち帰り、動画視聴によって予習した。なお、予習用の授業動画は筆者が作成した。授業では、展開でグループ活動を主に行い、終末で「ずらし」を作ることで教師が本時の学習をまとめた。また、教師は、グループ活動の間、2学年間を常に行き来し指導した。さらに、授業後に児童を対象としたアンケート調査を実施した。また、授業を参観した2名の現職の教師(うち1名は担任)を対象にアンケート調査を実施した。

3. 結果・考察

図1に児童によるアンケート調査の結果を示す。結果から、多くの児童が、グループ活動で自分の考えが深まったと感じていることが示された。また、友だちの考えを聞いて内容を理解できたと感じている児童も多く、グループ活動に対して肯定的な回答が多く得られた。

表1に教師によるアンケートの回答から得られた自由記述の結果を示す。その結果、反転授業に関して、「効果があつたのではないか」といった肯定的な意見が多く得られた。

以上の結果から、反転授業を導入することで、複式教育の充実に寄与できる可能性が示唆された。具体的には、以下の2点が明らかになった。まず1つ目は、一方の学年に反転授業を用いることで、効果的な「ずらし」をつくり得ることである。2

つ目は、担任が動画を作成することで、より児童の実態に沿った予習が可能になるということである。担任による動画作成は、児童数が少ない複式学級であれば、より効果的であることが想定される。

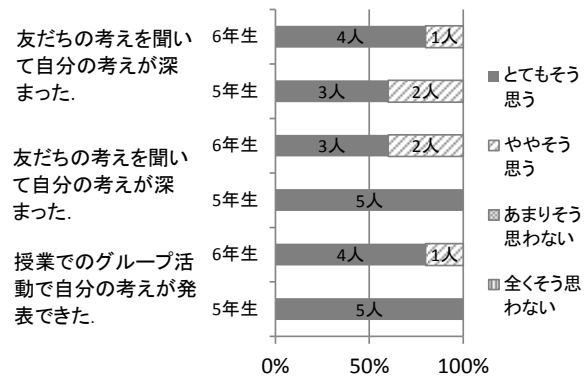


図1 児童によるアンケート調査の結果

表1 教師によるアンケート調査の結果

	回答
教員 A	ワークシートに考えてきた足跡が見られたので、効果があつたのではないか。 1つの学年に用いることで、10分~15分の効果的な「ずらし」が可能になる。 担任が動画を作ることで、児童の実態に沿った予習が可能になる。
教員 B	予習をしてもらうことで、授業中に教え合いや練り合いの時間が多く取れる。 どの教科で使えるか、どの場面で使えるかがはっきりすると良い。

4. まとめ

本研究では、長崎市内の公立小学校5・6年生を対象に反転授業を実践した。児童および教員を対象とした調査の結果、反転授業を導入することで、複式教育の充実に寄与できる可能性が示唆された。また、一方の学年に反転授業を用いることや担任が動画を作成することなど、より効果的な実践の展望が示された。しかし、動画の内容やグループ活動の方法など、改善すべき点も明らかとなった。今後は、一方の学年に反転授業を用いた授業や担任が作成した動画を使った反転授業を実践していきたい。また、児童の学習到達度を測り、複式教育における反転授業の評価を行うことが今後の課題である。

参考文献

- 文部科学省(2014) ICTを活用した教育の推進に関する懇談会報告書, http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/1351684.htm, (参照日 2016.1.27)
- 長崎県教育委員会(2014) 第二期長崎県教育振興基本計画, http://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kanko-kyoiku-bunka/kyoikukikannado/overview/promotion_plan/131278.htm, (参照日 2016.1.27)
- 重田勝介(2014) 反転授業 ICTによる教育改革の進展. 情報管理, 56(10), 677-684

(指導教員 瀬戸崎典夫: 初等教育講座)